

第9回水稻病害虫発生予察結果（伊豆市内）



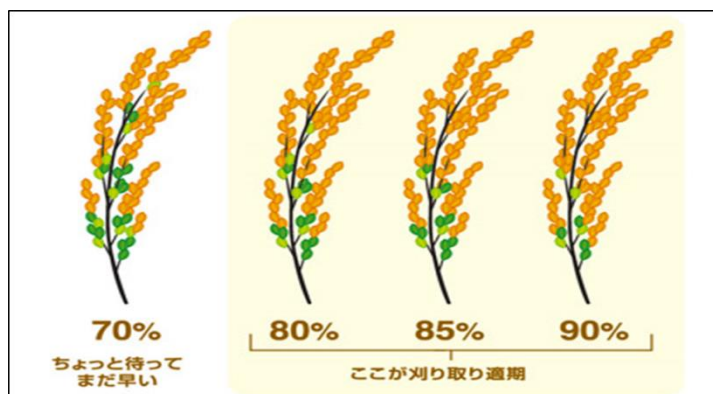
4月下旬～5月上旬田植えの早生品種（コシヒカリ・ひとめぼれ等）

【生育状況と栽培管理】

4月下旬から5月上旬に田植えを行った田んぼ全体で、籾をつぶすと白い液の出る乳熟期となっております。籾の生育には水が必要となりますので、間断灌水の水管理を行うようにしてください。カメムシ防除で粉剤を施用した散布防除を行っている方は、**2回目**をこのタイミングで散布するようお願い致します。

【早生品種の出穂後の積算温度について】

コシヒカリの場合、出穂から数えた積算温度が 1,000℃に達した頃が刈取適期と言われておりますが、気象条件により前後することがありますので、籾の黄化具合を見て刈取り時期の判断を行ってください。（籾の 80%～90%程度が黄変し、穂の元に緑色の籾が一部残っている頃）



各地区の早生品種の出穂が確認出来てからの積算温度は以下の通りとなります。

(8月1日時点)

地区	下白岩	原保	門野原	大平	北又
温度・出穂					
積算温度 (℃)	417	408	418	422	417
出穂確認日	7月18日				

積算温度と出穂日は各地区に定めた巡回圃場のものです。

【病害虫の発生状況】

田んぼでウンカの発生が確認されています。現在、発生量は少ないですがウンカが起こす被害として、ウンカの大量発生により多くの稲の汁液を吸い枯らしてしまう『坪枯れ』という被害が発生します。『坪枯れ』が発生すると収穫量減少を招く恐れがありますので、ウンカの発生動向に注意してください。

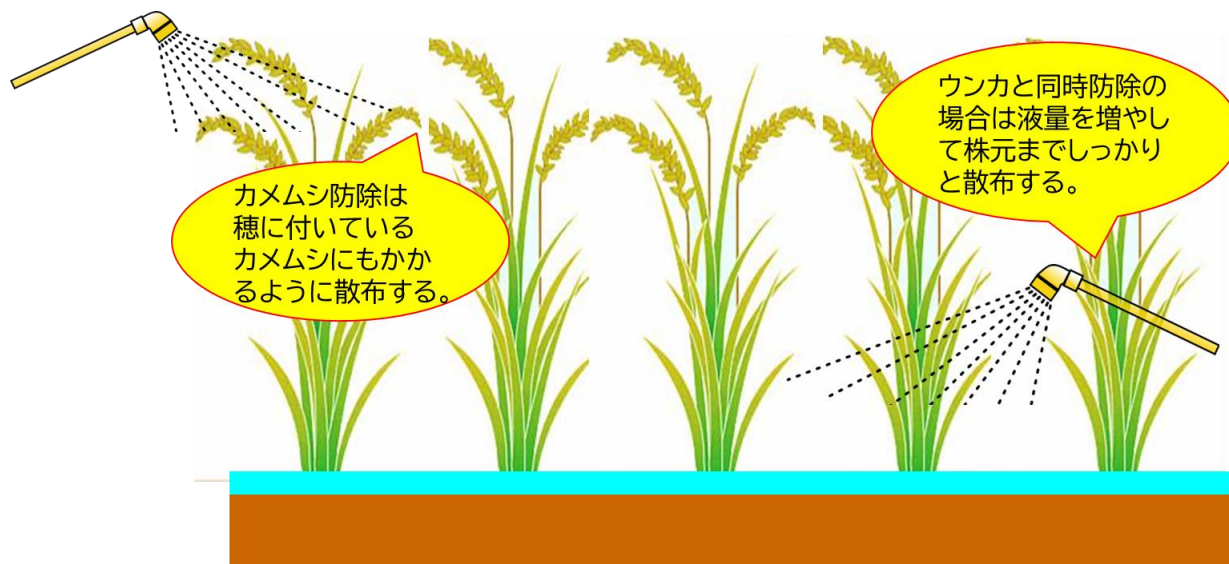
5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

【生育状況と栽培管理】

幼穂は1.5cm～13cmと圃場によりバラつきが見られますが。2週間～3週間ほどで出穂となると予想されます。出穂には水が必要となりますがこの時期に田んぼを干からびさせてしまうと玄米の成長に悪い影響が出ますので水の管理に注意してください。

【病害虫の発生状況】

発生量は少ないですがウンカが確認されております。中・晩生品種は刈取り時期が遅いので、ウンカの大量発生が起これやすくなります。大量発生すると『坪枯れ』による深刻な被害が起これやすいためウンカの発生動向に注意を払い、今後の予察結果を参考にして適期防除につとめてください。ウンカを防除する農薬はカメムシ防除と同じ薬剤ですが、生息している場所が違うため散布場所に注意してください。



過去の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！



作成日：令和5年8月1日
J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
電話：0558-72-4461